

あなたは耐えられますか？

突然の避難指示で

着の身着のまま避難し、10年経っても

自宅に戻れない理不尽さに！

福島第一原発事故後に避難指示が出された12市町村の2011年3月11日現在の住民登録者数は総計97,748人(田村市は都路町、南相馬市は小高区、川俣町は山木屋地区のみ算入)でしたが、今年2021年2月1日現在の居住者数は22,478人となっています。つまり、約75,000人(77%)もの住民が元の自宅に戻れていないのです。



しかも現在の居住者数には第一原発の事故収束に当たっている職員、作業員、除染作業員などの転入者、滞在者も統計に含めている自治体もあるため、実際に自宅に戻れていない元住民はもっと多いはず。また、避難指示解除で帰還した方々の生活も事故前とは全く違ったものになってしまっているのです。

あの事故の時、2号機では水蒸気を逃す機能(ベント)が働かなかったものの、格納容器の一部が破損していたため、たまたま蒸気が逃げて大爆発を免れました。また、運転停止中の4号機では、使用済み核燃料プールに、仕切り壁の隙間からたまたまウェルの水が流入し、核燃料のメルトダウンを免れました。その偶然がなければ国分寺市民も含めて東日本の4,000万人もの住民が自宅を捨てて避難しなければならない状況だったのです。

福島原発よりも、より東京に近い茨城県の東海第二原発では、すでに設置から40年間を超えたにもかかわらず、例外的に運転期間が60年間まで延長され、再稼働の手続きが進められようとしています。原発が稼働している限り事故の危険はいつ誰に及ぶか分かりません。

先日も大きな地震がありました。地震のたびに原発はだいじょうぶか!と不安が重なります。

10年間の福島の住民の皆さんの苦悩を我がこととして捉え、原発事故の恐ろしさに向き合い、反対の声を上げていくことが、今回は避難住民にはなっていない私たち自身のこれからの生活を守ることにつながっているのです。

また、原発は事故を起こさなくても、普通に稼働するだけで、危険な放射能を10万年も出し続ける「核のゴミ」を生み出します。これ以上「核のゴミ」を増やし続けることは許されません。子ども、孫、子々孫々を「核のゴミ」からの避難住民にさせないためにも、一刻も早く原発を止めさせましょう!

